

| | | |
|---|------------------------------|-----|
| 3 | 過去1年間の人工妊娠中絶手術の有無 | 284 |
| 4 | 最初の人工妊娠中絶手術を受けることを決めた理由 | 285 |
| 5 | 最初の人工妊娠中絶手術を受けることを決定したときの気持ち | 286 |

調査票

第5回「男女の生活と意識に関する調査」実行委員会名簿

I 調査の概要

I 調査の概要

1 調査の目的

現在の日本における、性や妊娠などに関する男女の意識がいかなるものかを、さまざまな側面から分析することを目的としている。

2 調査項目

- (1) 日常生活や考え方について
- (2) 男女の関係性について
- (3) 性の意識や知識について
- (4) 対象者自身の性行動について
- (5) 初めてのセックス（性交渉）について
- (6) 現在の避妊の状況について
- (7) 予期しない妊娠の防止について

3 調査対象

- (1) 母集団：満16歳～49歳の男女個人
- (2) 標本数：3,000人
- (3) 抽出方法：層化二段無作為抽出法

4 調査期間

平成22年9月11日（木）～9月28日（日）

5 調査方法

調査員による訪問留置訪問回収法

6 調査実施機関

社団法人 新情報センター

7 回収結果

(1) 有効回収数 (率) 1, 540人 (51.3%)

(2) 調査不能数 (率) 1, 460人 (48.7%)

ー不能内訳ー

転居 206 (6.9%)

長期不在 46 (1.5%)

一時不在 313 (10.4%)

住居不明 55 (1.8%)

拒否 675 (22.5%)

その他 165 (5.5%)

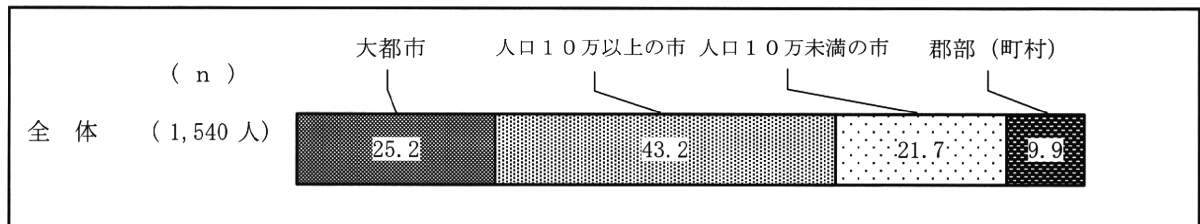
(3) 有効回答率

調査不能数のうち、転居、長期不在、住居不明によって調査票を手渡すことができなかったものを除く2, 693人のうち有効回答数1, 540人 (57.2%)

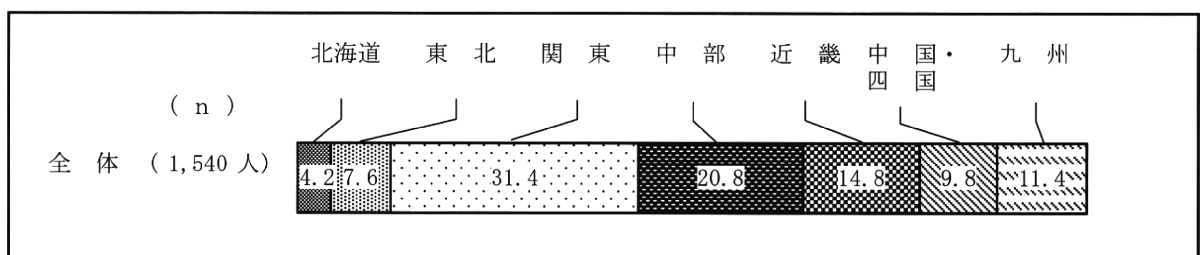
8 回答者の属性

(1) 都市規模・地域ブロック

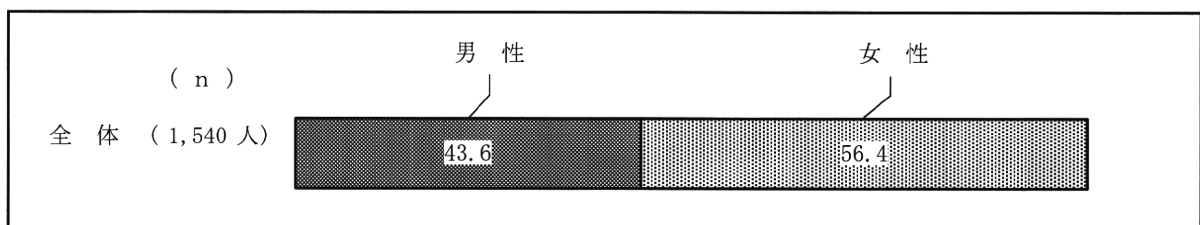
●都市規模



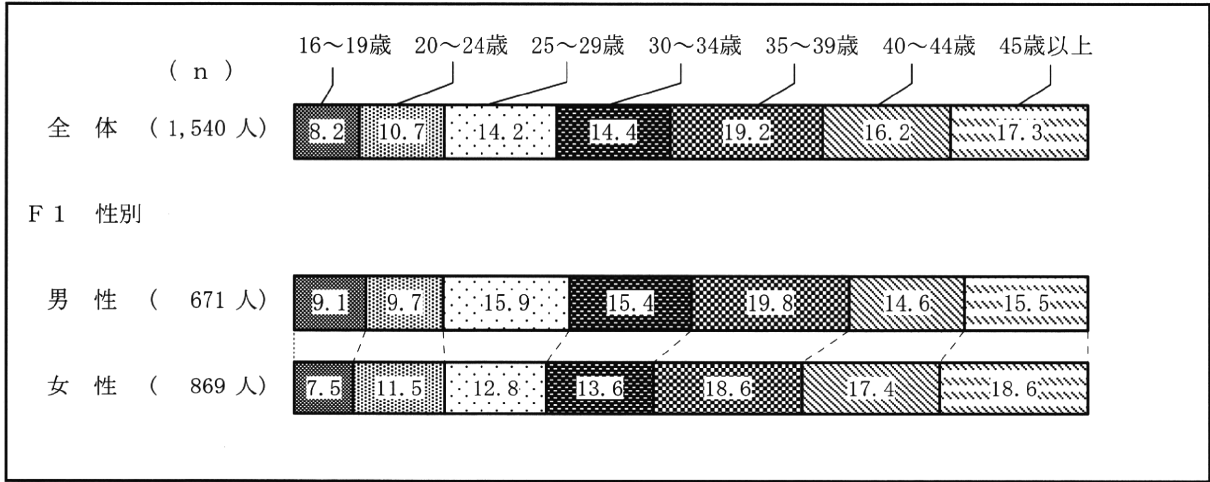
●地域ブロック



(2) 性別

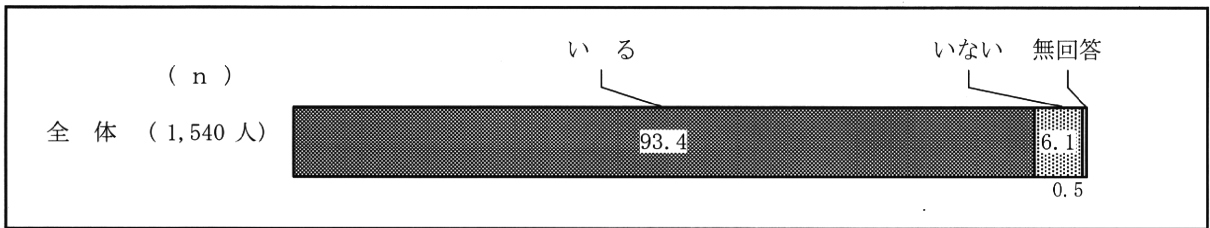


(3) 年齢

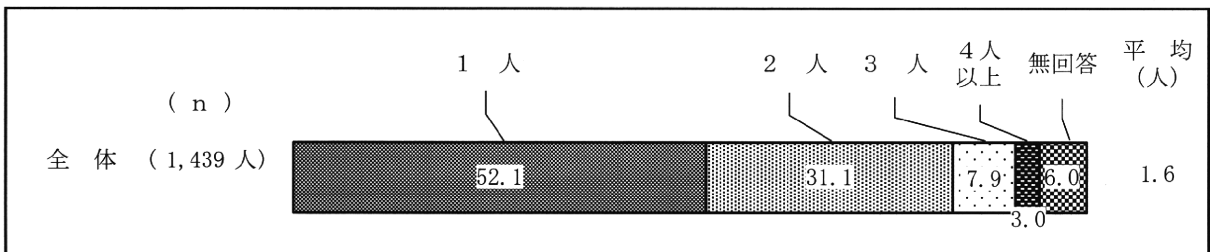


(4) 兄弟姉妹の有無と人数

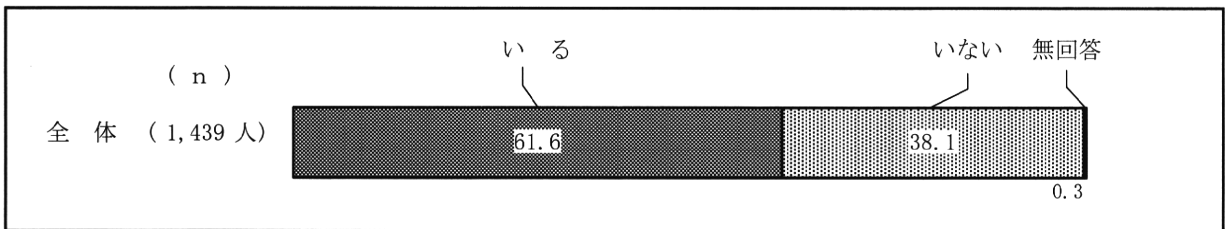
●兄弟姉妹の有無



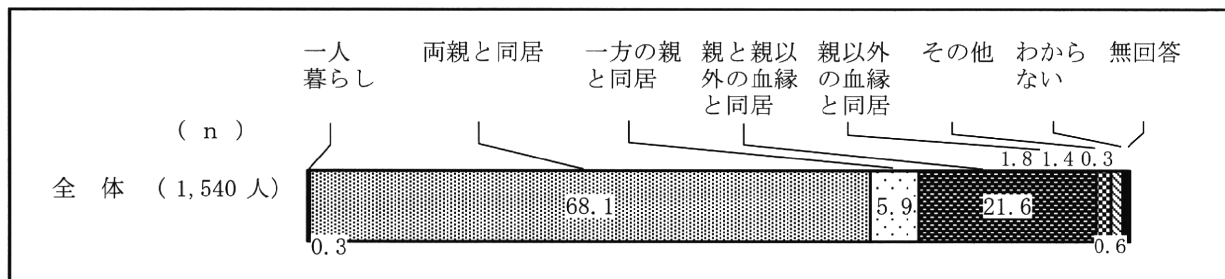
●兄弟姉妹の人数



●異性の兄弟姉妹の有無

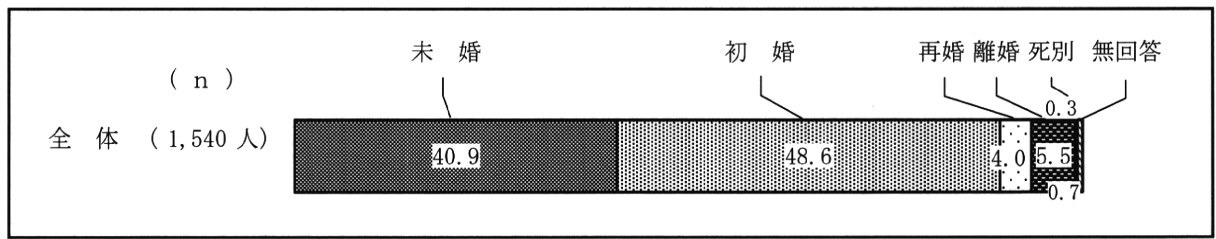


(5) 中学生時代の家族形態

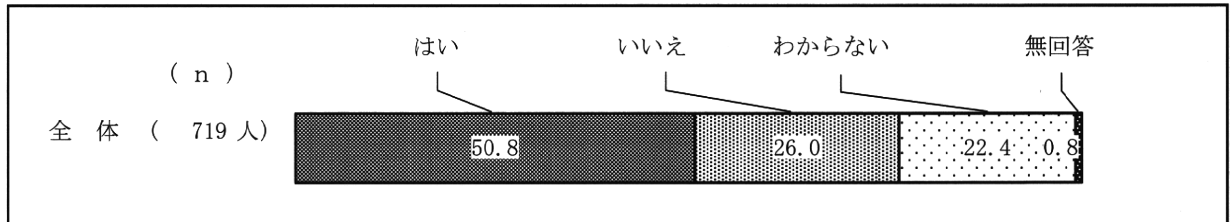


(6) 未既婚

●未既婚

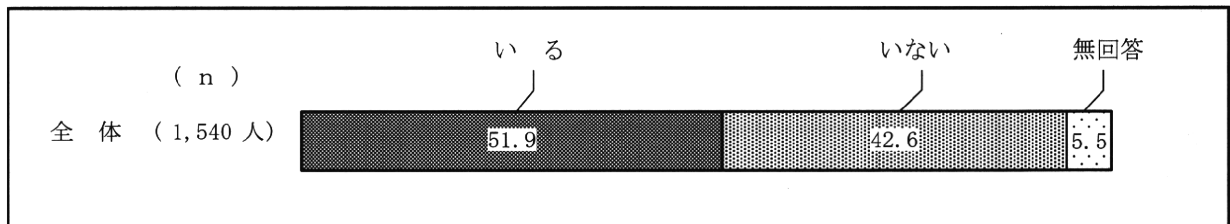


●未婚及び離死別者の結婚意向

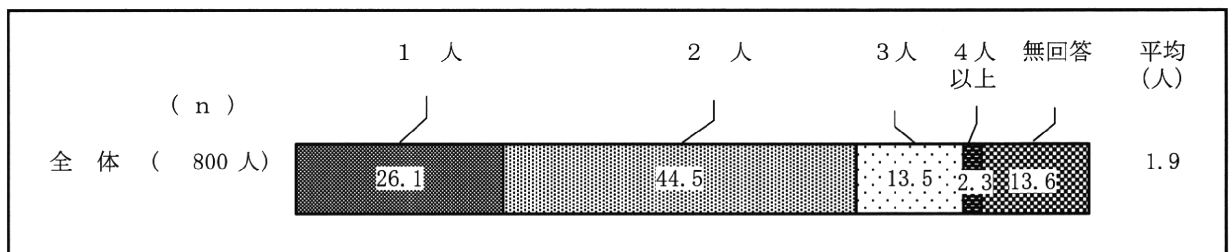


(7) 子どもの有無

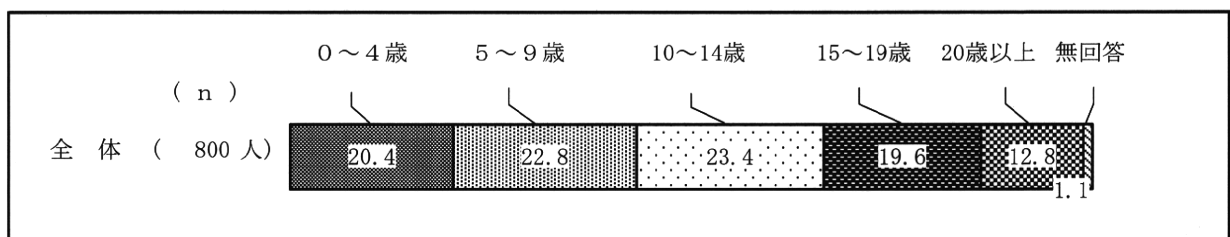
●子どもの有無



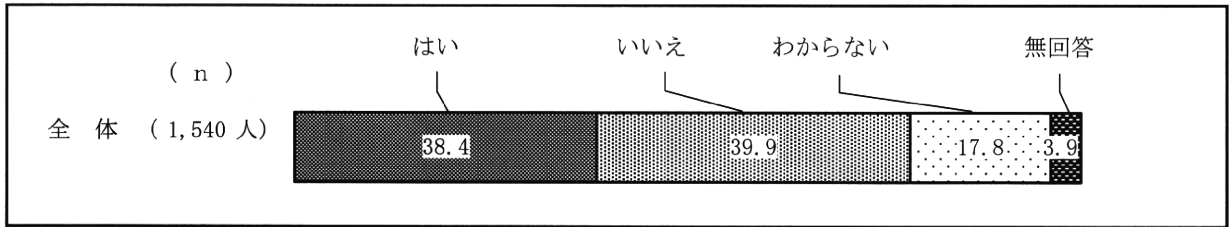
●子どもの人数



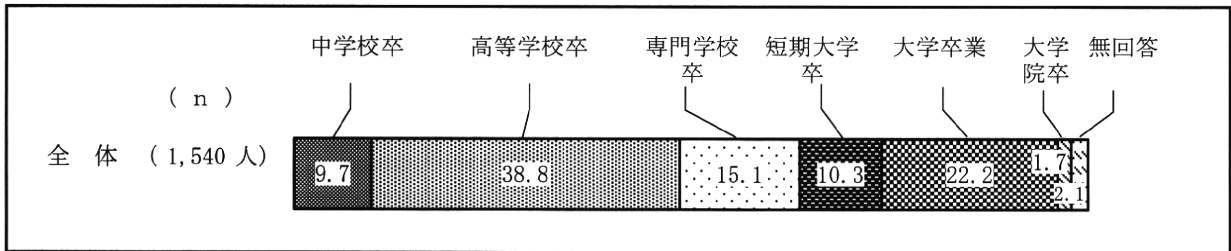
●長子年齢



(8) 子どもが欲しいか

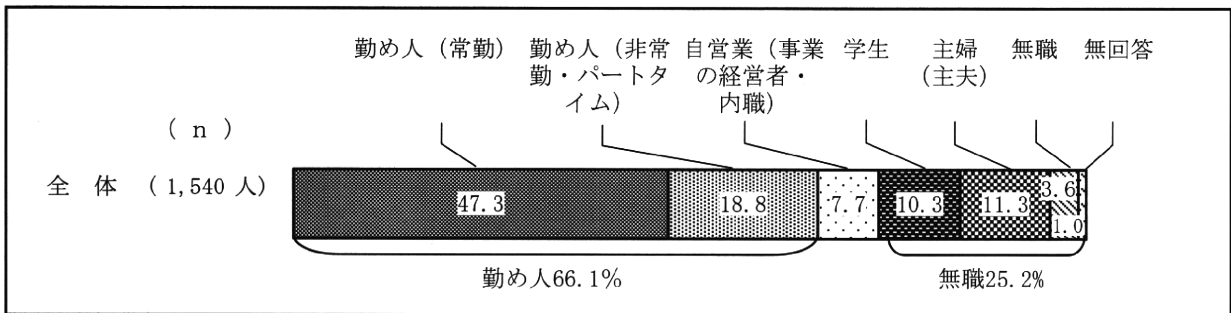


(9) 最終学歴

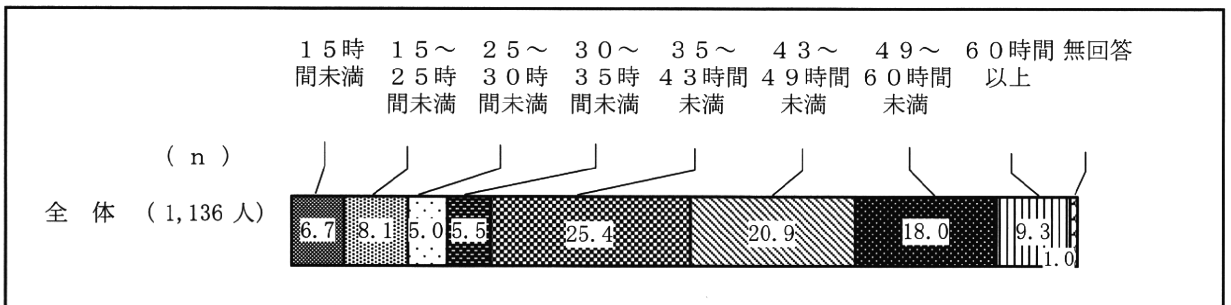


(10) 職業

●職業

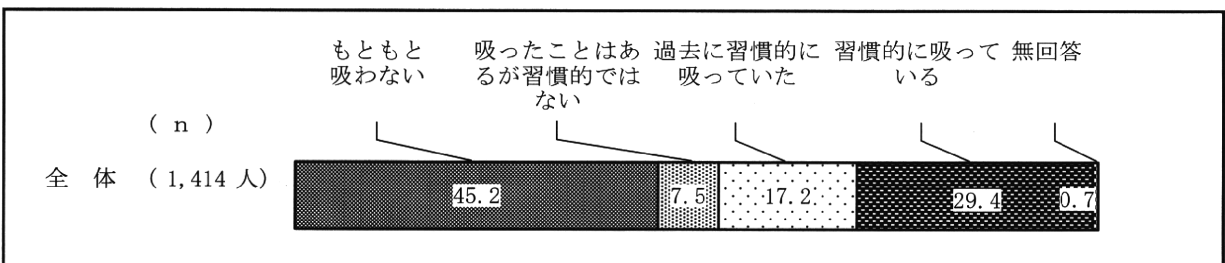


●1週間の平均労働時間

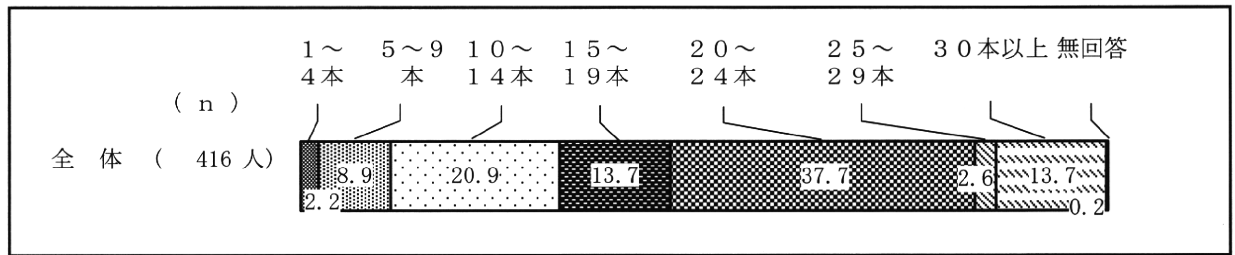


(11) 喫煙習慣 (20歳以上)

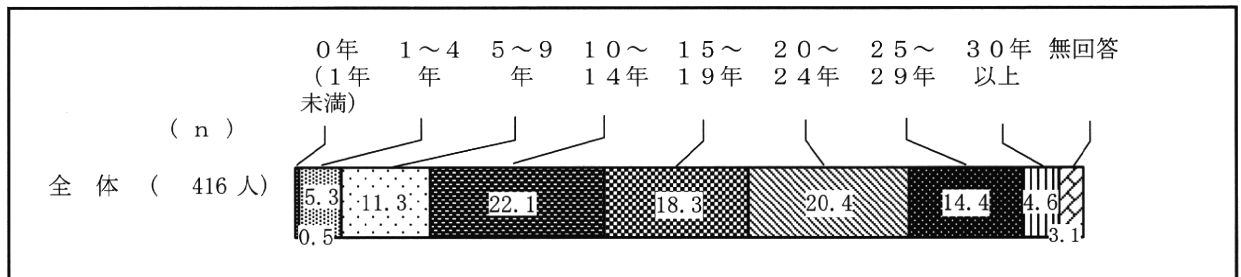
●喫煙習慣



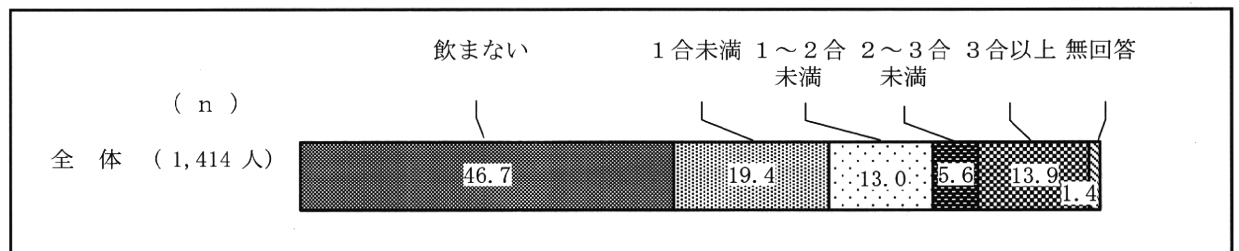
● 習慣的喫煙者の1日の平均喫煙本数



● 習慣的喫煙者の喫煙年数



(12) 1週間の飲酒量 (20歳以上)



9 この報告書を読む際の注意

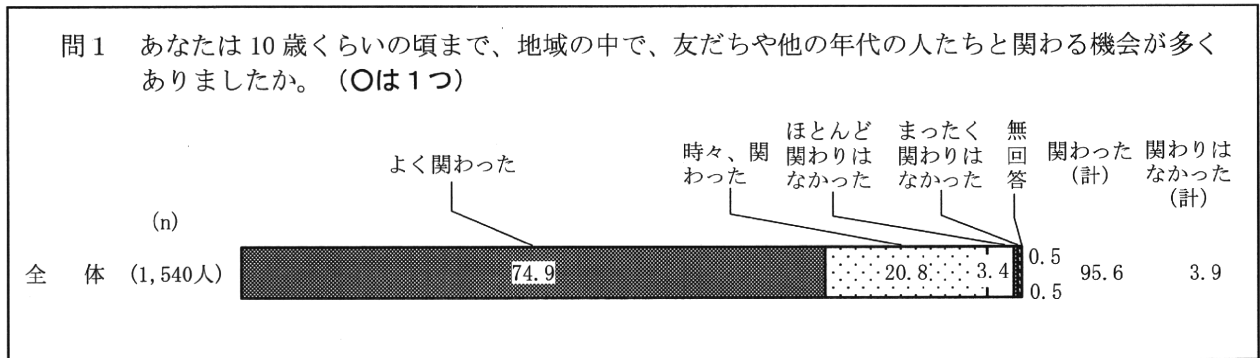
- (1) 図表中のnとは、比率算出の基数を表すもので、原則として回答者総数 (1,540人) または分類別の回答者数のことである。
- (2) 百分比は、小数点第2位で四捨五入して、小数点第1位までを表示した。四捨五入したため、合計値が100%を前後することがある。
- (3) 「(○は2つまで)」「(○はいくつでも)」と表示のある質問は、2つ以上の複数回答を認めているため、回答計は100%を超える。
- (4) 図表中“—”は、回答者が皆無であることを、“0.0”は0.05未満の数値であったことを示す。
- (5) 「II 調査結果の概要」では、類別の回答者数が50人より少ない場合は傾向をみるにとどめ、分類別の分析の対象からは外している。

Ⅱ 調査結果の概要

Ⅱ 調査結果の概要

第1章 これまでの日常生活や考え方

1 10歳くらいの頃までの地域における人との関わり

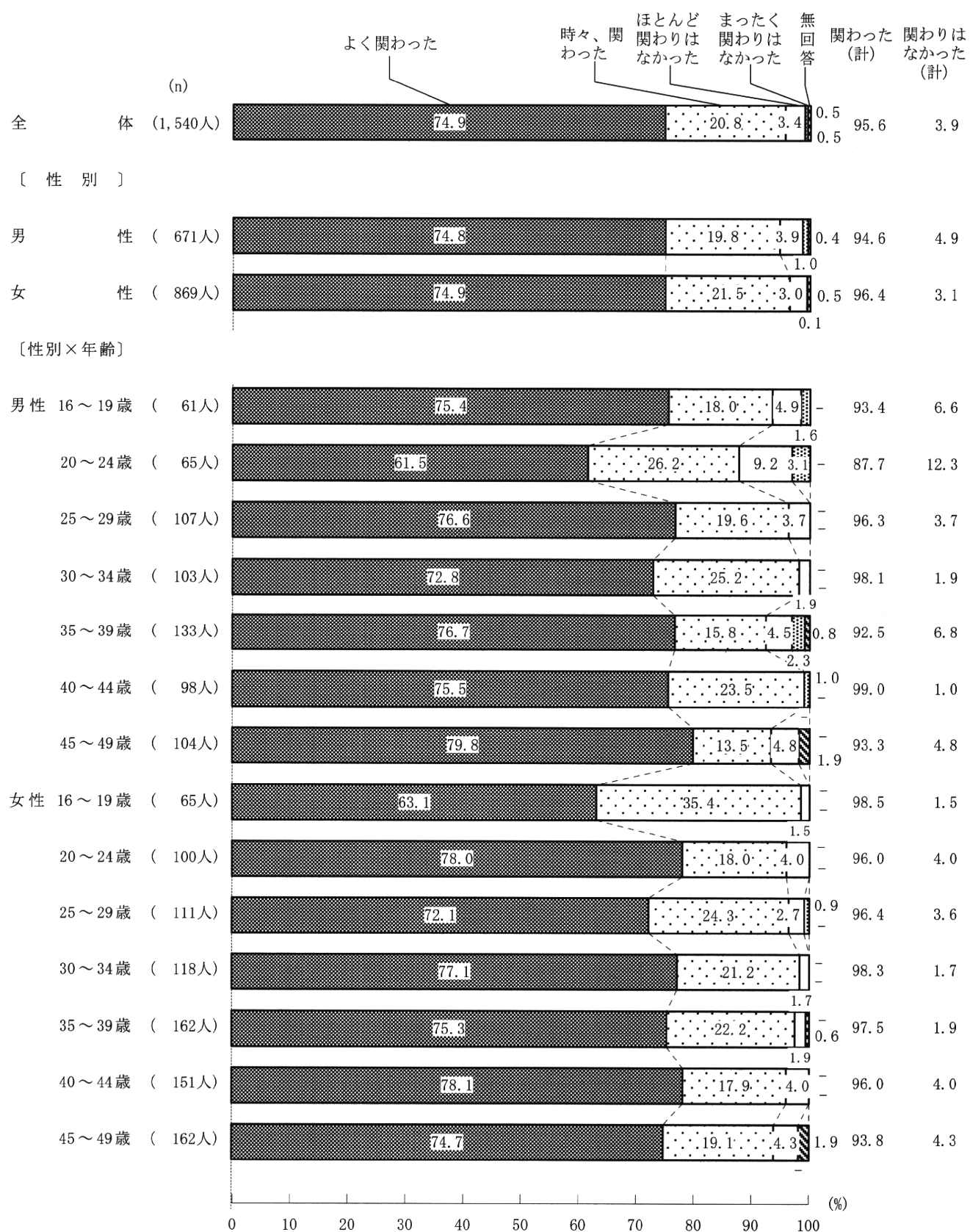


10歳くらいの頃までの、地域の中における友だちや他の年代の人たちとの関わりについて聞いたところ、「よく関わった」(74.9%)という者が4人に3人の割合で、「時々、関わった」(20.8%)という者を合わせると、ほとんどの者が地域の人と『関わった』(95.6%)と答えている。

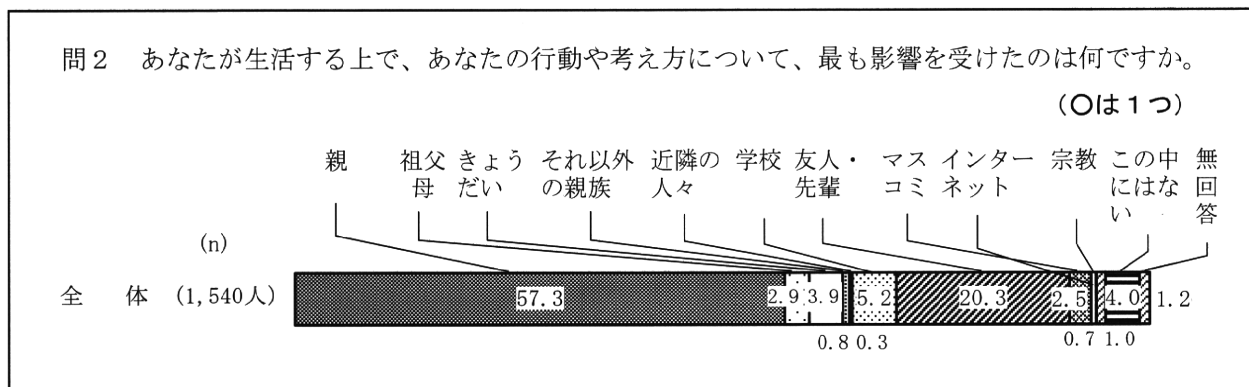
性別にみると(図1-1-1)、大きな差はみられない。

性・年齢別にみると(図1-1-1)、男性の45～49歳(79.8%)と女性の20～24歳(78.0%)、40～44歳(78.1%)の8割近くが「よく関わった」と答えている。また、男性20～24歳以外のすべての性・年齢層で『関わった』が9割以上を占めている。

図1-1-1 10歳くらいの頃までの地域における人との関わり（性別、性・年齢別）



2 行動や考え方で最も影響を受けた人等

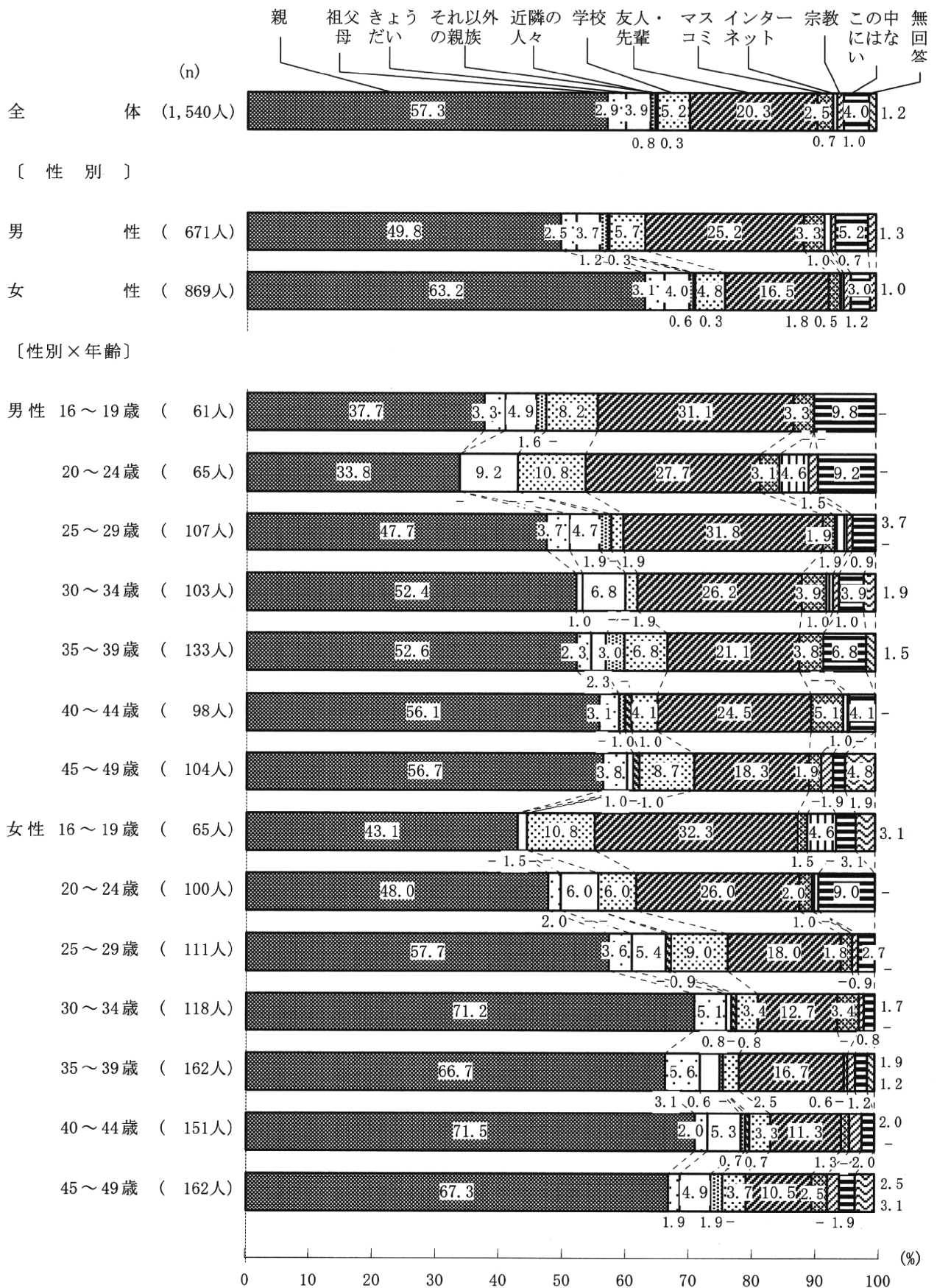


生活する上で行動や考え方について最も影響を受けたのは「親」と答えた者が 57.3%と半数を超えて最も多く、次いで「友人・先輩」と答えた者が 20.3%となっている。他の選択肢はいずれもわずかである。

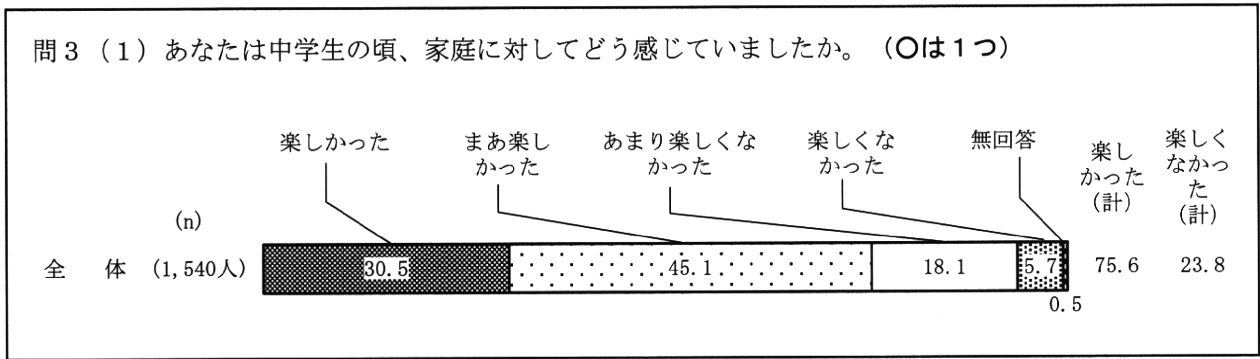
性別にみると（図1-2-1）、「親」と答えた者は男性（49.8%）より女性（63.2%）で多くなっている。

性・年齢別にみると（図1-2-1）、「親」という者は女性の30～34歳（71.2%）と40～44歳（71.5%）で7割を超えている。「友人・先輩」という者は男女共若年層で多くなっている。

図1-2-1 行動や考え方で最も影響を受けた人等（性別、性・年齢別）



3 中学校の頃の家庭に対する意識

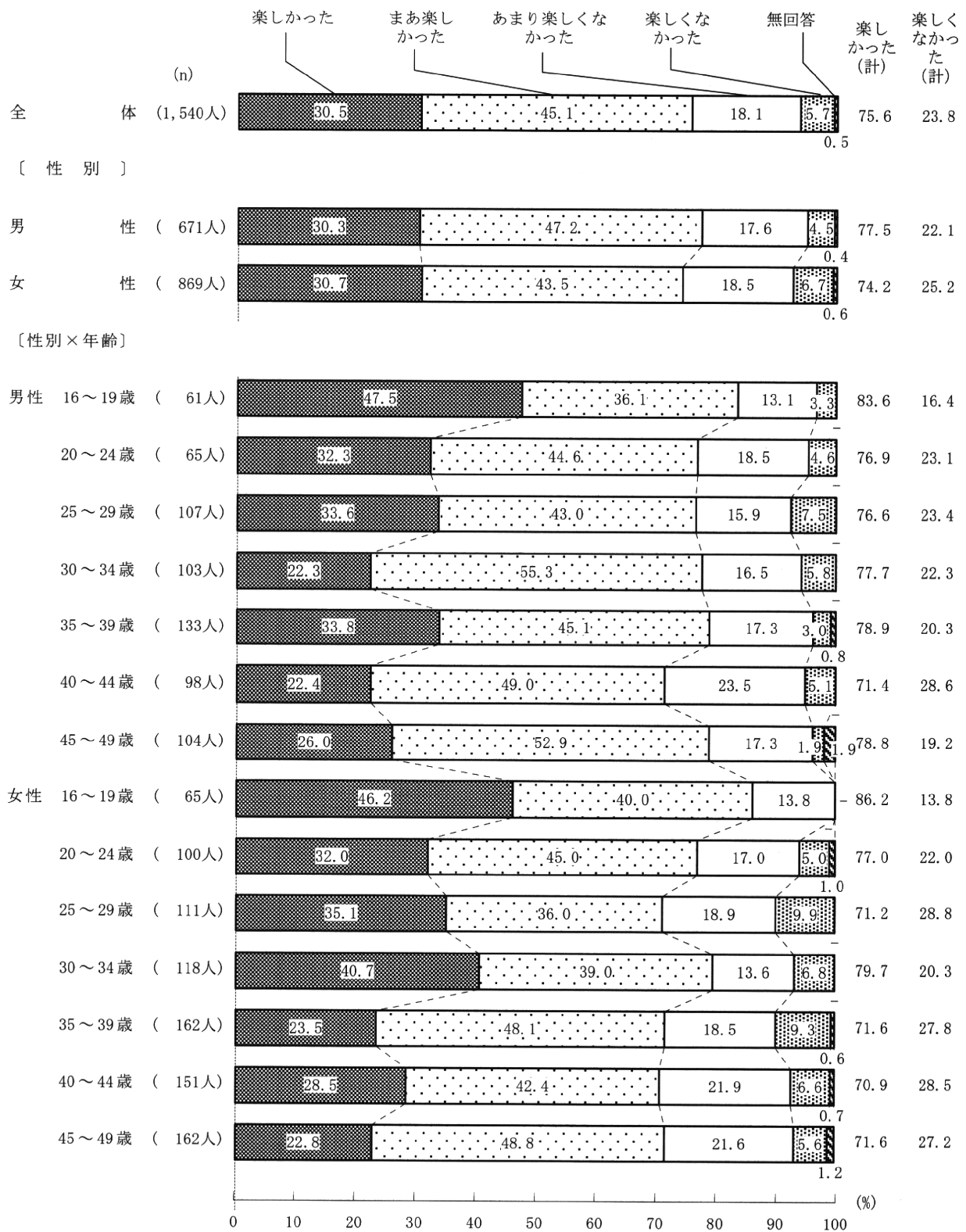


中学校の頃、家庭に対してどのように感じていたかについて聞いたところ、「楽しかった」という者は 30.5%で、「まあ楽しかった」(45.1%)という者を合わせると、4人に3人が『楽しかった』(75.6%)と答えている。一方、「あまり楽しなかった」(18.1%)と「楽しなかった」(5.7%)を合わせた『楽しなかった』という者は 23.8%である。

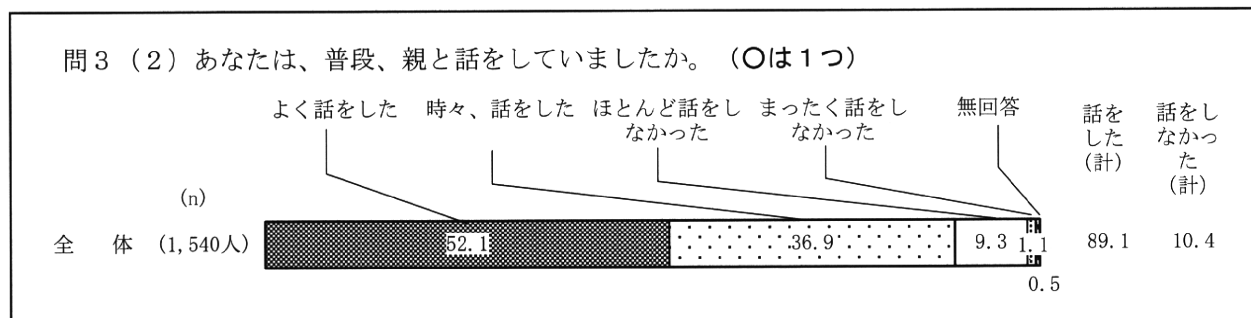
性別にみると(図1-3-1)、男性の「まあ楽しかった」(47.2%)が女性(43.5%)よりもやや多い。

性・年齢別にみると(図1-3-1)、該当数は少ないが、男女共に16~19歳の半数近くが「楽しかった」(男性47.5%、女性46.2%)と答えている。

図1-3-1 中学校の頃の家庭に対する意識（性別、性・年齢別）



4 中学生の頃の親との会話



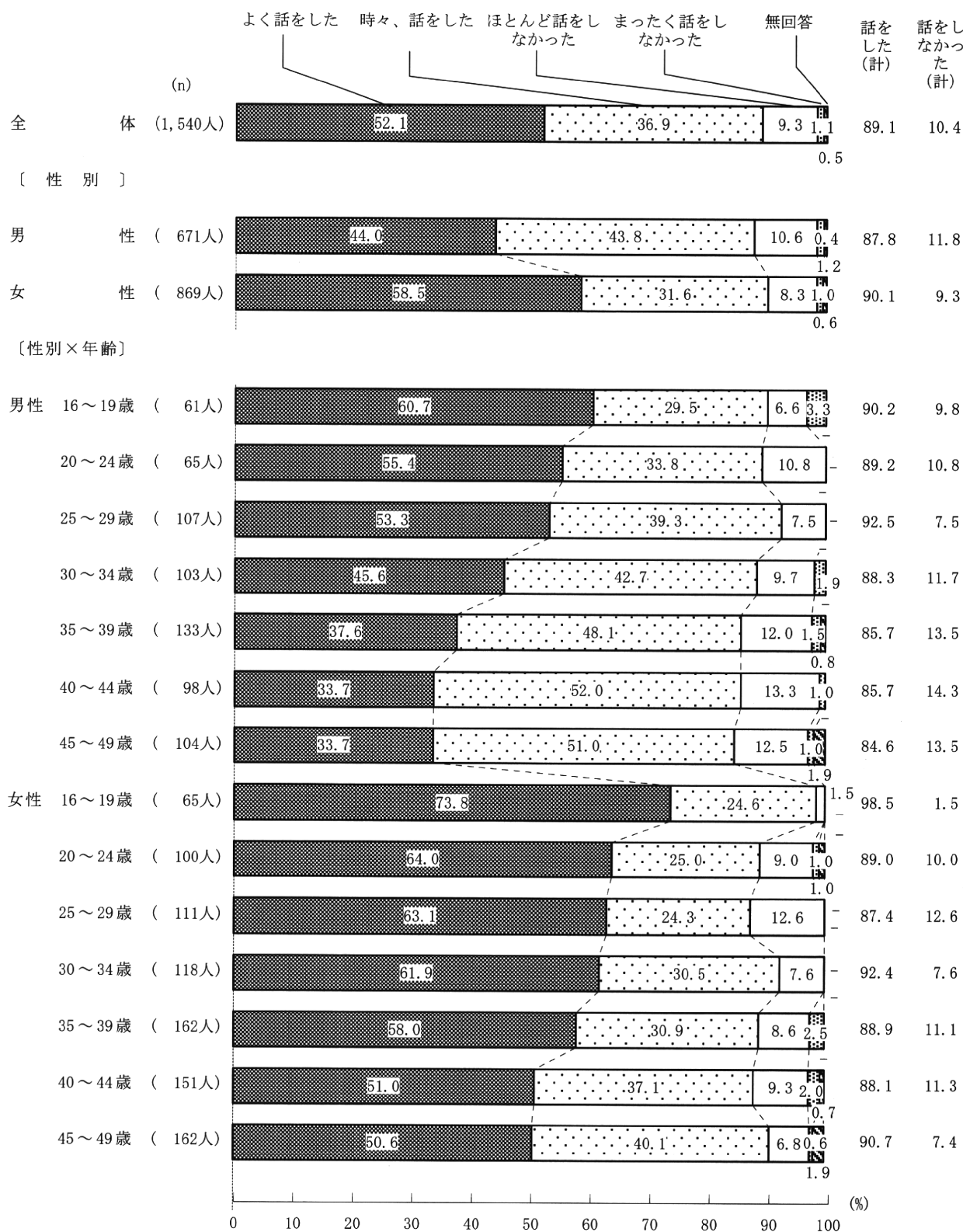
中学校の頃、普段、親と話をしていたかについては、「よく話をした」という者は 52.1%、「時々、話をした」(36.9%)という者を合わせると、9割近くが『話をした』(89.1%)と答えている。

一方、「ほとんど話をしなかった」(9.3%)という者は1割弱、「まったく話をしなかった」(1.1%)という者は少ない。

性別にみると(図1-4-1)、「よく話をした」という者は男性(44.0%)より女性(58.5%)で多くなっている。

性・年齢別にみると(図1-4-1)、若年齢ほど男女共に「よく話をした」という者が多くなっている。また、女性はいずれの年代でも「よく話をした」という者が半数を超えており、中でも、該当数は少ないが女性の16~19歳(73.8%)では7割以上となっている。一方、男性の35歳以上の世代では「よく話をした」という者はいずれも3割台である。

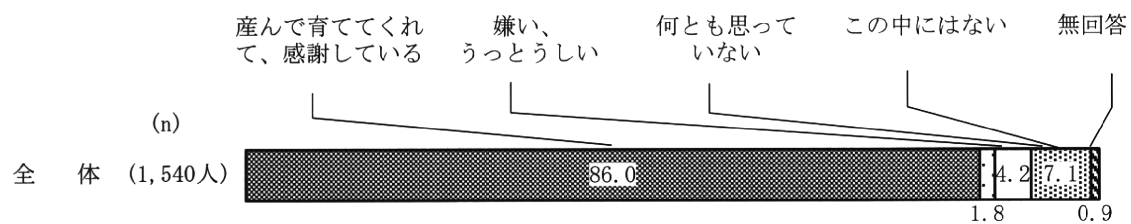
図1-4-1 中学生の頃の親との会話（性別、性・年齢別）



5 母親に対する気持ち

問4 あなたは両親をどのように思っていますか。母親と父親について、それぞれ最も近いものを選んでください。(〇はそれぞれ1つずつ)

(1) 母親に対して(〇は1つ)

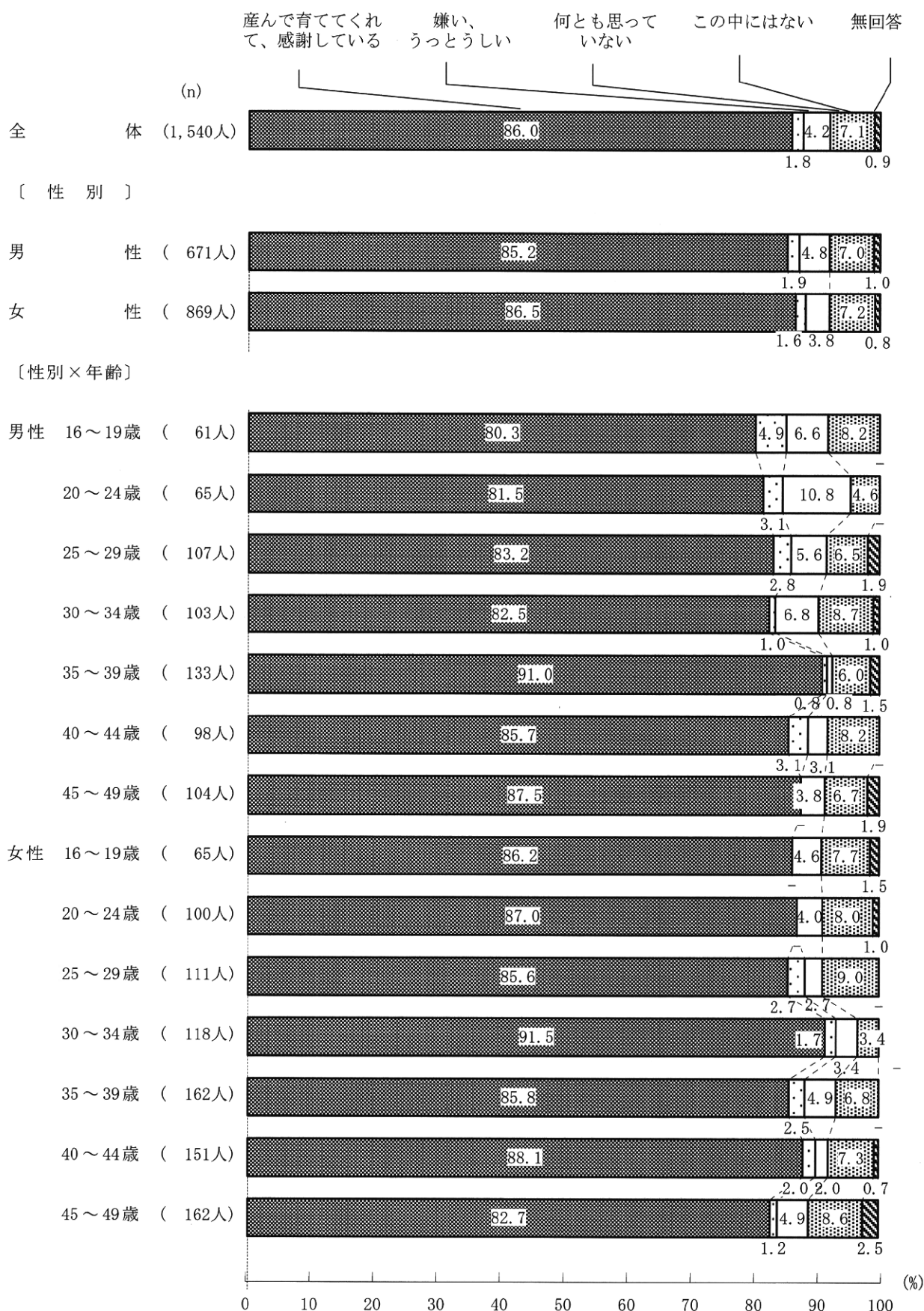


母親に対する気持ちについては、大多数が「産んでくれて、育ててくれて、感謝している」(86.0%)と答えている。次いで、「何とも思っていない」(4.2%)と「嫌い、うっとうしい」(1.8%)が続き、「この中にはない」(7.1%)という者は1割弱である。

性別にみると(図1-5-1)、男女で大きな差はみられない。

性・年齢別にみると(図1-5-1)、いずれも「産んでくれて、育ててくれて、感謝している」という者が8割以上であるが、その中でも男性の35~39歳(91.0%)と女性の30~34歳(91.5%)では9割を超えている。

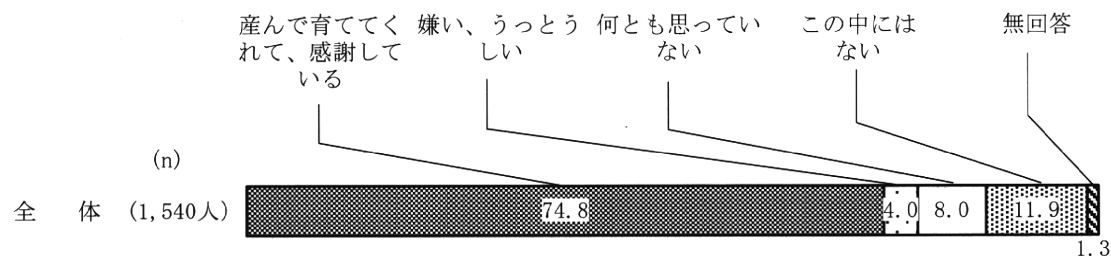
図1-5-1 母親に対する気持ち（性別、性・年齢別）



6 父親に対する気持ち

問4 あなたは両親をどのように思っていますか。母親と父親について、それぞれ最も近いものを選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

(2) 父親に対して(○は1つ)



父親に対する気持ちについては、「産んでくれて、育ててくれて、感謝している」と答えた者が74.8%で最も多く、「何とも思っていない」(8.0%)と「嫌い、うっとうしい」(4.0%)が続く。「この中にはない」(11.9%)は約1割である。

性別にみると(図1-6-1)、男女で大きな差はみられない。

性・年齢別にみると(図1-6-1)、「産んでくれて、育ててくれて、感謝している」という者はいずれも6割以上を占めているが、中でも男性の35~39歳(82.7%)と女性の30~34歳(84.7%)は8割を超えている。